



アイツの闇営業

散る夢
る夢

「はあ……」
ゆめの大きなため息がこぼれる。

荷物をまとめ控室を出ると、まだ少し肌寒い外の空気を吸い込み「よし！」と元気を奮い起こす。
（オーデイションに落ちたくらいでいちいち落ち込んでちゃ駄目だ！
また次で頑張ればいいよ）
アイカツモバイルを取り出し、ほかのオーデイションを探しはじめた。



アイドルの基本はセルフプロデュース。自分で考え、自分で決めなきゃいけない。自分がどんなアイドルになりたいのか、どんなアイドルの仕事をするのか……
無数にあるオーディション要綱を斜め読みしながら、漠然とそんなことを考えていると
「えっと、虹野ゆめちゃん？」と名前を呼ばれ、アイカツモバイルから目を離し振り返った。

「虹野ゆめちゃんであってたよね、四ツ星学園の」
声をかけてきたのは見覚えのない男性だった。
……テレビ局関係者だろうか。
よく見えないが社員証のようなもの首からぶら下げていて、
いかにも業界人と言った。立ちだした。
「はい！虹野ゆめです！」



「やっぱり！こないだのファーストライヴ拝見したよ。凄いじゃないか、
デビュ―して間もないのに」
「はいえ、そんな……」
「怪しからず談笑する。男はゆめの話ばかりで自分のことは話さない。
ペ―スに乗せられて話を続けた。」

「そうだ、ゆめちゃん。今度うちのイベントでステージやってくれないかな」
世間話の流れでふいに男が用件を切り出した。

「イベントですか？」
「うん。イベントといっても、お客さん入れるコンサートみたいなもんじゃないよ。社内イベント」
「はあ…」



「どういったイベントか上手く想像できないゆめは、答えを濁す。」

「うちの会社、この業界とパイプあるから、関係者の顔作りと思ってさ、」

「えっかな」

「えっと…」

「どうしたものだろう。一度話を持ち帰って誰かに相談したほうがいいのか？」

返答に困っていると、男は申し訳なさをうな顔を作った。
「あ、ごめんね。急にこんなこと言われても迷惑だよ。ギヤラが出るわけでもないし仕事として頼むわけじゃないから無理言えないか。ごめん、今の話は忘れて」



（仕事じゃない？ お金が出ないのなら少しお手伝いするだけだし、大丈夫なのかな？）
「わ、わかりました。お手伝いする程度なら……」
申し訳なさをうな顔をした。お手伝いする程度なら……
悪く思ってしまったゆめは、ギヤラが出ないというならと言う条件で承諾してしまっただけ……

当日のステージは好評だった



イベント……と言うよりもパーティーに近いその催しは、ゆめが
思っていたよりも規模が大きいものだった。
ステージの他にも司会のようなことでもして、パーティーが大盛況に
終わったあとに行われた打ち上げにも参加させて頂くこととなった。

「お疲れー!」

主催者の男性の挨拶で各々手に持った飲み物で乾杯する。
ゆめはオレンジジュースを渡されたが、周りの人たちはパーティー後と
言うこともあってアルコールが入っている人も多いようだった。



「虹野ゆめちゃんだったけ、可愛いねーおじさんファンになっちゃったよ」
ゆめのことを気に入ったおじさんが打ち上げ申すつと隣に座って熱心に
話しかけてくる。

「ありがとうございます」

ゆめはアイドルとしてその会話に真摯に対応する。かれこれ一時間ほど
話したのだろうか。

「それで、ゆめちゃんの憧れの先輩の名前なんだったっけ」

「えっと…ひめしえんぱいれす!」

次第に呂律がまわらなくなってきた。

「あ、あれ？なんでー？」

「どうしたのゆめちゃん？具合悪くなっちゃった？」

「い、いえ、しょんなことは……」

やはり舌がうまく動かない。一体何がどうなっているのか、ゆめは困惑を隠せない。

「具合悪いなら楽にしなよ……」 そう言いながらおじさんはゆめの

太ももを触ってくる。

「い、いやッ！やめて！」

咄嗟にゆめはその手を振りほどき、席を立った……が

ドタツ

ゆめは足がもつれて転倒してしまった。

「なになに？大丈夫？ゆめちゃんあん」

騒ぎに気付いた他の参加者も集まってきて、にやついた表情で床に座る

ゆめを見下ろしている。

ゆめは男たちの下卑た笑みに恐怖を覚える。

「な、なにを……」

「何をしたのだった？」

「そう聞き返すと周囲の男たちが一斉に笑い出した。」

「何もしちゃいけないさ、ゆめちゃんも勝手に酒飲んじゃった」

「だけだろ？」

「勝手にって!？」

「渡されたオレレンジジュースにお酒が混ざってていたのか、それとももっと」

「他の何かか……」

「飲酒がばれちゃったなら四ツ星退学になっちゃうかもね」

「そんな……」

「悪いようにはしないから、抵抗しないで『一緒に気持ちよくなるっぜ!』」

「きやああああ!」



ド
キ
ン

きゃあー！

離してー！

下着が
見えちゃう

グ
イ
ッ

ピンクのおパンツ
見えちゃうたね！



ビクッ

ヤダミ！
エツキ！

ビクッ

ビクッ

すり
すり

本当にやめて！

嫌ッ！

ホラホラ
知らないおじさんに
大事なおまんこ
触られちゃってるよお





お？

ゆめちゃん
又ヶべだねえ

ペッティングで
感じちゃうてる
じゃんw

ゴウゴウ

ゴウゴウ

ムニ

ムニ

ムニ...

オラッ
しゃぶれよ

ミ
ミ

ミ
ミ

ミ
ミ

アイドルだからって
お高くとまってんどや
ねえぞ!

うん...

うん

ぐっ

んん...

苦い...

そんなんじや
男を悦ばせられ
無いぞ



嫌ッ！

ガ
リッ

このクソガキ
噛みやがった！

ギ
ャ
ア
ア
ア
ッ
ッ



ペニスを噛まれた男はゆめの頬を叩き、物凄い剣幕で怒鳴る。
「甘くしてりや付け上がりやがって！お前みたいなのがキにはしつげが
必要のようだなあ！」
ドスを利かせた罵倒にゆめは震え上がる。
「怖い！怖い！誰か助けて……！小春ちゃん！ローラー！」
「徹底的にぶち犯してやる！」

ビバビバ

キーン

んーんーッ!

暴れるな!!

観念しろお!



かく
かく

ド
ド

ムムムム

ムムムム！

ヒ
ヒ

新人アイドル
虹野ゆめちゃんとの
生本番いっきまあーす♪

ゆめちゃんのお
処女膜貫通うー!!

こころみおみおみおみおみおー!

ゴクゴク

しゅわしゅわ
しゅわしゅわ

しゅわしゅわしゅわ

ばん

ゆめちゃんも
これで経験済みの
中古まんこだね!



うへエミッスツゲ
ギチギチに締まってるッ

せー！

痛いー！
痛いよおー！

か

か

み

み

み

み

み



オラアアン!

めっしー!

駄目ッ!

ズゴ

ズゴ

ズゴ

カリ

カリ...

ん、おれんじ

かく

かく

止まれる
ものかよお!

ゴゴゴ



精液射精るう

ぐゅーっ

!?

カダミー...

ビエールルーツ

ゆめちゃんの
新品ピカピカ子宮に!

お願いだめええッ

まだ誰の精子も
注がれてない子宮に
流し込むうう!

ビエールルーツ

かく

かく

かく

かく

嫌めめめめめー!



オ、オオッ
射精が止まらんッ

そ、そんなあ

あ……

ゆめちゃん！
中古ビッチまんこ
デビューおめでとう！

ゴゴゴ
ゴゴゴ

あ、あ、あ……
……

どし
どし
どし

おちの
おちの

ぽっ

わく

わく



ひあ…ヒイッ！
ギい…ッ！

ん…ん…ん…
ん…ん…ん…

か<

か<

すす
すす

ぱん

ゆめちやんのケツ穴
気持ちいいわあ！！





んっ...

んっっ...

アレアレ？

わっ

ゴクンッ

わっ

んっ

ぽん

ずっ

ずっ

ずっ

ずっ

ずっ

もしかして、ゆめちゃん
アナルで感じてるの??



うめ……が……
うめ……が……
ミ

うて

わく

わく

あ……あ……

きったねえなあ！

さっき膣内に出した
精液こぼれてんどじゃ
ねえか！

ゴポポポ

ゴポ
ぱん

ゴポ

ゴポ

もっと気持ちよく
してやるよ!

!?

かく
かく
かく

ゴクッ

さささ

ズ
イ
イ
イ
イ
イ
イ
イ
イ
イ

さささ
さささ
さささ

オラッ
イケッ
イケッ

ポ
ポ

ポ
ポ



ズポ

ズポ

ズポ

ぽぽ

ぽぽ

うわー

んっ
んっ
んっ

今度こそしっ
っかり
しゃぶれや!





ピュルルーツ

ドクドクツ

ん
ん

ドクドクツ

ん
ん

俺の精液で
妊娠しろお!

精液射精るう

ぽんぽん

ぽんぽん

ああ、
そこそこお!



とく とく
とく

うぱん

じゅんじゅんじゅん

ゴク
ゴク
ゴク

くっさい精液
せえくんぶ残さず
飲み干せよ!!

ド
プ
ツ

よっしや!
イクぞお!

よおし！出すぞー！
膣内に出すぞー！

いせぬミーー！

ゴクゴク
ジハジハ

ずくずく
ずくずく

ぱんぱん

ゴドゴド
プッ

アイドルマンコに
種付けだあああ！

ぱんぱん

ムンムンムンムンムンムン



ぱん

うやあミー！

あ

あ...

あの
あの

あ

あ

あ

赤ちゃん？
そんなに欲しいなら
子種提供してやるよ！

痛……いッ！
はん……ううっ
やめ……てエ……ッ

身体が
壊れちゃっ
ッ

激しく動くよお

ズン

ズン

グボ

痛いッ

ズン

ズン

セクッ

セクッ

ズン

ズン...

グボ

グボ

ズン

グボ

ズン
ズン

ヤダー！
動かないっ！

ぬめぬめ
抜いて抜いてッ

うへエ...スツゲ
ギチギチに締まってるッ

2本なんて
無理いいい！

セクッ

セクッ

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

すんすん

すんすん

すんすん

へばるなよ

〜ミ〜ミ〜

ゆめちゃん
肉便器の才能も
あるみたいだな！

ん〜ミ〜ミ

〜ミ〜

ポポポ

ポポポ



射精すぞッ

全部飲みよ!

すっぴん

すっぴん

すっぴん

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

うん

うん

んんんんんんんん

あーっ!

くっくっくっくっ
ーっくっくっくっ

びんびん

出るッ

びんびん

びんびん

びんびん

びんびん

びんびん

びんびん

びんびん

びんびん

くっくっくっくっ
ーっくっくっくっ

かく かく

かく かく

ずぽ♡

ずぽ♡

おふっ…二本挿し
やばいな

ぎゅの
ぎゅの

止めて…
止めてえー！

お腹破け
ちやうかからあー！

ずく

ずく

ずく

膣内におじさんの
くっさい精液流し込んで
やるからなあ

痛いッ

ゴブゴブ

お願いーおめこ

ゴブゴブ

どどど
ゆるゆる

瞳内
だしイイイッ!!

射精るッ
射精るッ!!

ミマカ

ずくずく

ずくずく

どどど

—おめこ—

おん...おん...おん...

かく
かく

おん...おん...おん...
おん...おん...おん...

オラア！イケヤよ！！

おん...おん...おん...

おん...おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...

おん...おん...おん...

おん...おん...おん...

おん...おん...おん...

おん...おん...おん...
おん...おん...おん...
おん...おん...おん...

イギーッ！

お願いいい
少し休ませてください

腰も
もつと動かさせろ

かっ

かっ

かっ

ゴク
ゴク

あーっーっー！

ズッ

ズッ

ずぶ

ズッ

ズッ

俺の精液で
妊娠しろお！



お母さんさー！

ビクッ

孕ませ汁
流し込むうううーッ

お母さんさー

びく

びく

お母さんさー！

ゆめちゃん
射精すよお!!

あめめさー！

びく
あめめさー

ビクッ

ズラ

ズラ

ズラ

ズラ



しまく

次は俺と
エッチしようね

あ…ヒイッ…
ひ、ギい…ッ!

ゆめちゃん?

あ……あ……

かぐ

ゴクッかぐ

かぐッ

かぐ

かぐ

ゴクッ

ゴクッ

びんぽ

かぐ

かぐ

あ……

ゴクッ

びんぽ

ゴクッ

ッ

あ、ダメだ
こりや

あああああ

構うもんか!
抵抗しなくて
かえってやりやすくだろw

それからゆめは意識がなくなるまで執拗に男たちの慰み者にさせられた。後になつてわかったことだが、男たちは反社会勢力のグループで、ゆめはすっかり騙されて営業していたのだ。反社会勢力のパーティーで営業したことがバレたら、自身はおろか四ツ星学園や他のアイドル達にも迷惑がかかる脅され、ゆめはこの目の陰惨なできごとを誰にも話さず自分の胸にしまい込むことにした。

—数か月後、無事にS4になつたゆめの元に、連絡が入つた。



「な、何の用ですか？こんなところに呼び出して……」
男たちの事務所を訪れたゆめはそう切り出した。本当は分かっている。
この男たちが何をやる気なのか……

「S4になったんだって？おめでとう！その制服にあってるね」
「S4のゆめちゃんか？あなたがスキヤンダル起こしちゃったなら四ツ星学園
終わっちゃうねw」

「……何が言いたいんですか？」
男たちはニヤニヤした目でゆめの腹部を見る。



「ネットでもちらほら噂が出てる」
「……なんの話ですか」
ゆめは男たちのもったいぶった言い方に苛立ちながら訪ねる。

「妊娠してるんだろ？それも俺たちの誰かの子種でさ」

「……」
「もう墮胎できる時期過ぎてるよね？どうするのこれからw」

「……」
「身体に異常を覚えたのはずっと前のことだった。経緯が経緯だけに誰にも相談できず、ゆめの年齢では一人で対処するすべもなく、ここまで来てしまった。」

「どうしたらいいのかわかんないよ！私にもわからないよ！」

「このままでは憧れのひめ先輩から託された歌組S4の名を汚してしまう。ゆめはとも思い悩み、焦っていた。……だから、男たちの誘惑に乗ってしまった。」

「俺たちが助けてやるよ」

「え？」

「墮ろすにしろ、産むにしろ、俺たちなら世間の目から隠してやれるよ」

「ほ、本当に……」

「ああ、協力するよ。だから、トップアイドルの虹野ゆめちゃん、俺たちの奴隷になってよ」

断ることができなかった。

脱いだらけっこう
お腹出てるじゃんw

今までよく
隠せてたな

ギン
ム

ドキ

ドキ

お、お願い…
優しくして…

最初犯した時は
よく知らなかったけど
S4犯すと思うと
興奮するな



ゴクゴク

んいっ

うっ

オオーツ

久しぶりの
ゆめまんこっ

びびび

ん

びび

びび

ん

あ

あ

あ

あ

あ

あ

ゴブゴブ
ゴブゴブ

こめめこ

まずは一発目だ！
たっぷり流し込んでやる
からな！！

ゴブゴブ

ゴブゴブ

♡♡♡♡♡

ゴブゴブ

ゴブゴブ
ゴブゴブ

♡♡♡♡♡

母乳
噴き出てるよw





うおおっ♡

何だ？
本当に発情してる
じゃないか

S4なのに
そんなスケベで
恥ずかしくないのか！

ぱん
ぱん

かっ
かっ

あー♡

♡

♡

♡

ぱん
ぱん

ぱん
ぱん

アイドルなのに
ちんぽで絶頂して！
ファンや仲間に申し訳ないと
思わないのか！！

ぐいぐいこぼす
ひやめこぼす
こぼす



あーっ♡

あーっ♡
あーっ♡
あーっ♡

あーっ♡
あーっ♡
あーっ♡

ぱんぱん

あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡
びゅー

あーっ♡
あーっ♡

あーっ♡
あーっ♡
あーっ♡

ゆめちゃんが
こんな淫乱だっ
たよ！！
なんて見損な
ったよ！！



びく
びく

わく♡
わく♡

わく♡
わく♡

わく♡
わく♡

わく♡
わく♡

わく♡
わく♡

わく♡
わく♡
どんだけちんぽ
好きなんだこの
売女!

ぽろ

ぐわ

ぐわ

ぽろ

ぽろ

ぽろ

わく♡
わく♡



ビ
ク
ン

ビ
ク
ン

びゅん♡

イ
ク
ミ
♡♡

イ
ク
ミ
♡

イ
ク
ミ

いいぞお
ザーメン出るうう！

びゅん♡

び
ゅ
ん

びゅん♡

く
ん
ん
ん
ん
ん

びゅん♡

びゅん♡

く
ん
ん
ん
ん
ん

ド
ン
ド
ン



びしょびしょ♡

びしょびしょ♡

びしょ♡

んひっ♡

あひっ♡

びしょびしょ♡

びしょびしょ♡

あひっ♡

びしょびしょ♡

びしょびしょ♡

びしょびしょ♡

どどどびしょびしょ♡

んひっ♡

びしょびしょ♡

あひっ♡

びしょ

じゃあ、2回戦
行こうか

とうとう
壊れちゃったな



ゆめちゃん
ちやんと掃除して
帰ってね

うへえ、精液で
ドロドロじゃねえか
きつたねえな!!

あいら♡♡

ふー
もう精液でねえわ

へえ♡

あへ♡♡

カク♡
カク♡

カク

カク

おっ♡

それじゃあ
また呼ぶから
よろしくね

びしょ...

びしょ!

カク♡

カク♡

あっ♡

ロッ

びしょ♡
びしょ♡

びしょ
びしょ

びしょ
ゴクッ
ゴクッ

それから、ゆめは男たちの言いなりになって身体を好き勝手に弄ばれる日々が続くのだった。



あの時、学園に報告して調べてもらっていいれば、イベントに参加することもなく、真つ当にアイカツできていたのかもしれない。

ゆめが後悔しない日は無い……

BAD END

Coming Soon



敗北虐待サマシキ



















































































































